

「第7回西日本若手技術交流会」実施報告

浜 孝之*

1. はじめに

ぶり返した厳しい残暑のなか、平成25年9月12日（木）～13日（金）に淡路市にて第7回西日本若手技術交流会が開催された。本交流会は支部や産学、学生/社会人などの枠を超えて若手研究者および技術者が交流することで、研究および技術に関する情報交換と連携を推進し、幅広い横の繋がりを構築することを目的とした事業である。本交流会は当初は、東海、関西、中国四国、九州の4支部若手の会による共催事業として2007年から始まり、第1回（2007年）は九州支部¹⁾、第2回（2008年）は東海支部²⁾、第3回（2009年）は中国四国支部³⁾、そして第4回（2010年）は関西支部⁴⁾を幹事支部として年1回のペースで開催された。4支部で一巡後、関西、中国四国、九州の3支部により継続して開催されることになり、第5回（2011年）が九州支部⁵⁾、第6回（2012年）が中国四国支部⁶⁾を幹事支部として開催された。そして今回第7回が関西支部を幹事支部として開催される運びとなった。以下に交流会の概要と今後について、実行委員長の立場から報告する。

2. 交流会の概要

2.1 スケジュールと参加者内訳

本交流会はこれまで同様に1泊2日の合宿形式で開催された（表1）。参加者は初日にJR西明石駅に集合後、バスで神戸製鋼所加古川製鉄所へ移動して工場見学を行った。その後再びバスで交流会の会場となる神戸製鋼所保養所淡路ゆうなぎ荘へ移動し、ポスターセッションの準備と参加

表1 交流会のスケジュール

9月12日（木）

13:00	西明石駅集合後、加古川製鉄所へ移動
13:35-15:50	加古川製鉄所見学
15:50	会場（ゆうなぎ荘）へ移動
16:50	到着後、ポスターセッションの準備
18:00	参加者による自己紹介
18:30	懇親会、宿泊

9月13日（金）

9:00-10:00	ポスターセッション
10:20-12:20	基調講演、支部若手の会活動報告
12:20	昼食
13:30	西明石駅へ移動、到着後解散

原稿受付 平成25年9月27日

*京都大学大学院エネルギー科学研究科 〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町

者による自己紹介、そして懇親会を行った。二日目はポスターセッション、基調講演および各支部若手の会の活動報告を行った。その後バスで西明石駅まで移動し散会した。

本交流会には、ほぼ定員どおりの49名（定員50名）の参加があり、非常に盛況であった。図1に参加者の内訳を示す。支部別にみると幹事支部である関西支部から約半数の25名と最も多く、次いで九州支部の14名、中国四国支部の10名であった。共催支部以外からの参加はなかった。一方業種別にみると、学生が約6割の28名であり、次いで教育・研究機関から13名、企業から8名であった。参加者に関するこのような傾向は、ほぼ例年どおりであった。図2に参加者一同による集合写真を示す。

2.2 工場見学会

工場見学会では、神戸製鋼所加古川製鉄所の全体説明に続いて原材料ヤード、高炉、厚板工場を見学した。山のようにつまみだされた鉄鉱石や高炉から取り出された溶銑を混銑車で製鋼工場へ運搬する様子など、普段目にするのことができない貴重な現場を見学することができた。見学後には、多角的な視点から活発な質疑があった。

2.3 懇親会

交流会会場の淡路ゆうなぎ荘は、瀬戸内海と明石海峡大橋を眼前に望む素晴らしい立地の保養所である（図3）。バスで会場へ到着後、翌日のポスターセッションの準備を挟んで参加者による自己紹介と懇親会が行われた。自己紹介では、真剣な話あり笑いあいの打ち解けた雰囲気の中、

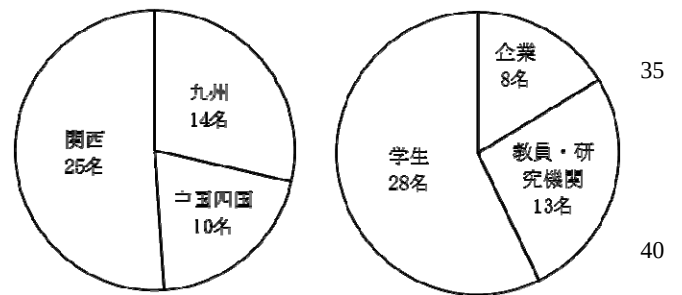


図1 参加者の内訳



図2 明石海峡大橋を背景にした集合写真



図3 淡路ゆうなぎ荘から望む瀬戸内海に沈む夕日

各自の研究テーマや趣味、近況など多様な紹介があった。続く懇親会ではまさに当初の目的どおり支部や産学、あるいは学生/社会人の枠を超えて深夜に至るまで研究、就職活動、人生、趣味など様々な話題で交流を行った。

2.4 ポスターセッション

二日目は朝から、学生を中心としたポスターセッションを行った。ポスター発表は全24件あり、12件ずつに分かれてポスター前で説明するコアタイムを設けて、計1時間行われた。今回のセッションでは、学生同士による自発的かつ白熱した議論が多かったように筆者個人は感じた(図4)。また説明のコアタイムを設けていたため、一つのポスターに自然と数人が集まって議論する場面も多く見られた。結果としていずれのポスターでも社会人と学生の枠を超えた本音の議論が繰り広げられ、1時間では全く足りないくらい活気あふれたセッションであった。

2.5 基調講演と支部活動報告

基調講演では、関西の産学から1件ずつのご講演をいただいた。ダイジェット工業の梶岡彰氏からは、「最新の脱WC・Co 工具材料について」という題目でレアメタルにおける価格および安定調達上の諸問題や工具用合金の最近の研究開発状況について講義いただいた。また京都工芸繊維大学の飯塚高志氏からは、「アルミニウムエンボス板の変形挙動と見かけの力学特性」という題目でエンボス板材の塑性力学について最近の研究成果を講義いただいた。いずれのご講演も基礎から応用までが整理された学生にも分かりやすい内容であり、講演後には活発な質疑があった。

基調講演に続いて、各支部若手の会から最近の活動報告があった。九州支部では本交流会と同様の企画を支部内でも独自に開催する計画であること、中国四国支部ではたたら製鉄をはじめとする地元に根付いた技術の見学会を行っていること、また関西支部では最近話題の3D造形技術に関する 세미나を企画中であることなどが報告され、各支部で工夫を凝らして若手の活動を推進している様子が伺えた。

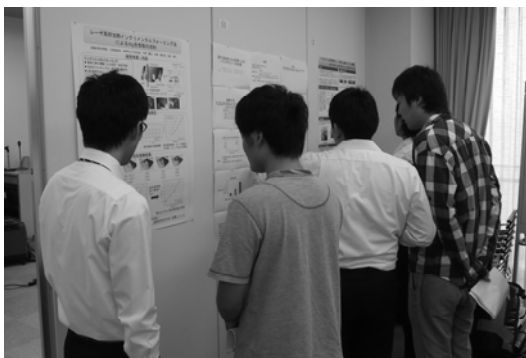


図4 学生同士による白熱した議論の一コマ

3. おわりに

各支部若手の会幹事各位ならびにご参加くださった皆様のご協力により、第7回西日本若手技術交流会をつつがなく終えることができた。参加者からは有意義であったとの声も多く、幹事支部として肩の荷が下りた次第である。工場見学や保養所の利用などで多大なるご協力をくださった神戸製鋼所殿には、心からの感謝を申し上げます。また、企画の段階から共催支部として多くのご支援とご尽力をくださった各支部若手の会幹事の皆様には、この場を借りて御礼を申し上げます。

本事業では塑性加工技術振興事業における学会活性化活動基金より多大な助成をいただいた。このように毎年多くの学生が参加できるのは、本交流会では第1回開催時から発表する学生に対して旅費の一部を補助してきたためである。交流会予算の大部分が基金からの助成によるものであり、助成なしには開催し得なかった。若手活動へのご支援に心より感謝いたします。

このように7年間に亘って開催されてきた西日本若手技術交流会であるが、3支部若手の会で議論を重ねた結果、今回をもって発展的休止をすることになった。その主な理由を以下に2つ挙げる。1つ目は、この規模の事業を年1回開催し続けることが大きな負担になっている点である。現在は3支部での持ち回りで開催されているため、交流会終了後に間をおかずに3年後の企画を考え始める必要があり、他の行事企画に割ける時間が大幅に制限されている状況であった。隔年で開催してはとの意見もあったが、入れ替わりの早い若手(特に学生)を対象とした行事を隔年で開催すると継続性が保てないとの意見が多かった。2つ目は図1の参加者内訳からも明らかなように、企業からの参加者が相対的に少なく、産学交流としてはまだまだ不十分な点である。企業からの参加者を増やすべく毎年模索してきたが、あまり大きな改善をみることはできなかった。

以上の課題は数年前から指摘されてきたものの、結果として現在に至るまで解決できないまま持ち越されてきた。もちろん一方で本交流会が若手交流の場として非常に貴重な機会であることには変わりなく、何らかの形で若手が本音で議論できる場を継続的に設けることが重要である。そこで3支部で協議した結果、本交流会は一度発展的解消をし、抜本的な対策を十分検討した上で新しい形で再スタートすべきとの結論に至った。今後については現時点で白紙の状態であるが、3支部で継続して議論を進めていきたい。

なお、本交流会に関する詳細情報や写真集は日本塑性加工学会関西支部ホームページ内(<http://www.jstp.or.jp/commit/kansai/>)にも掲載しているので、あわせてご参照いただきたい。

参考文献

- 1) 大津雅亮：塑性と加工，**49**-568 (2008)，399-400.
- 2) 池田陽介：塑性と加工，**50**-577 (2009)，100-101.
- 3) 上森武：塑性と加工，**51**-588 (2010)，19-20.
- 4) 松本良：塑性と加工，**51**-598 (2010)，1060-1061.
- 5) 和田康裕：塑性と加工，**52**-699 (2011)，1065-1066.
- 6) 中山恭秀：塑性と加工，**53**-622 (2012)，991-992.